

# ACANTHUS NEWS



平成15年 2003.11

月刊アカンサスニュース  
金沢大学広報紙 第84号

## 理学部広瀬教授に イグ・ノーベル賞

TOP NEWS



受賞の喜びを報告する広瀬教授（中央）＝10月10日，学長室

理学部の広瀬幸雄教授は10月2日，米国ハーバード大学系パロデー科学誌が主催する「イグ・ノーベル賞」を受賞した。同賞は「最初に人を笑わせ，その後考えさせる」研究や開発に贈られるもので，同教授は兼六園のヤマトタケルノミコトの銅像に鳥が寄りつかないことをヒントにカラスを撃退する合金を作り，同賞化学賞に選ばれた。贈られた手作りのトロフィーには超微細な『ナノ結晶』が入っている(?)との主催者側の説明だが，持ち帰る途中で箱がはずれて，結晶はなくなってしまったとのこと。

## ニーレンバーグ博士に 名誉博士の称号授与

このほど，米国国立衛生研究所 国立心肺血液研究所 遺伝生化学研究部長のマーシャル・ウオレン・ニーレンバーグ博士に本学3人目となる「名誉博士」の称号を授与することとし，10月21日，医学系研究科山本博教授が米国ベセスダの同研究所を訪問し，「名誉博士記」を伝達した。

1968年にノーベル医学生理学賞及び米国学士院賞を受賞するなど学術文化の発展に多大の業績を有する同博士は，長年の医学系研究科等との共同研究をととして，本学の教育研究の進展に貢献したことが評価され，今回名誉博士に認定されたもの。



右から4人目，「名誉博士記」を披露する博士  
＝米国ベセスダ市内のレストラン

# 巻頭言

## 大学医局改革と大学院



医学系研究科長・医学部長  
福田 龍二

聖域なき構造改革の中で、行政改革とともに医療改革、教育改革が進行中である。大学病院医局を中心としてきた医療体制に対しては、これまでほとんど改革の手が下されたことはなく、それだけに極めて厳しい対応を迫られてくるものと予想される。今、医学系大学院で最も重要な問題である大学医局と大学院問題について私見を述べさせていただきます。

医学系大学院には大学院本来の位置付けに加え、次のような特殊な事情もあると思われる。医師はその所属する大学医局への依存が非常に大きい。主任教授を頂点とする医局は人事権を握っている一方で、その主任教授を中心とする医学研究の推進にも大きな役割を持って来た。すなわち、所属する医師達に医学研究を行ってもらうことである。ここで2つの問題が出てきた。1つは大学医局改革・解体である。事実、文部科学省は、医師の名義貸し問題の次に取

り組むべき課題として大学医局改革を予告している。医局が弱体化し人事権がなくなった場合、大学院志望が減少するのは明らかである。さらに大きな問題は卒後臨床研修必修化により、新卒者と大学医局の結びつきが弱くなることである。いったん外の病院（特に大都市の病院）へ出た研修医を医局員として呼び戻せるであろうか。医師の世界でもますます競争が激しくなってくるのは自明であるが、ここで要求されるのは臨床医としての実力であり（学位の有無ではないであろう）、専門医の資格の方がより重要である。このような状況下ではたして大学院研究を行う余力があるのだろうか。

私の提案したい打開策は大学医局の抜本的な改革である。まず民主的に運営される医師集団であることが第一である。さらに医療、医学研究を総合的に見渡すことのできる広い視野をもった集団であるべきである。単に医局や個人の目の先の利益のみを追求しているのでは、早急に若い医師達から見放されるであろう。医師としての強い使命感のもとに、自由な発想や考えを出し合って相互理解を深め、問題の解決に当たって行けば、各人がなすべきことも明らかになり、過疎地の医療問題なども解決できると思われる。また医学研究に対する新たな情熱も湧いてくるのではないか。そして熱心な若い医師達を呼び戻すことができるであろう。

### 目次

理学部広瀬教授にイグ・ノーベル賞	1	就職戦線に備える	8
ニールバーグ博士に名誉博士の称号授与	1	アカンサス学生情報システムが稼働	8
巻頭言 大学医局改革と大学院	2	新任部長	9
馳文部科学大臣政務官が角間キャンパスを視察	3	北陸技術交流テクノフェア2003	9
知的財産活動への参加を！	3	第19回高校教育研究協議会	9
学生が特許分析調査の基礎を学ぶ	3	不審者が侵入した！	9
第41回全国大学保健管理研究集会	4	—附属小学校・幼稚園で避難（防犯）訓練—	9
「くすりと健康プラザ」開設記念市民講演会	4	講演会 「輸血ポンプ、チューブ類管理と転倒・転落	9
市民公開セミナー「がん医療の最前線」	4	事故の発生要因と対策～インシデント1万事例の分析	9
教育フォーラム2003 in羽咋	5	から明らかになったこと～」	9
第2回北陸ポストゲノム研究フォーラム	5	海外研修の成果を報告	10
大学アーカイブズの意義、役割を提言	5	教育学部の環境管理を見学	10
法人化半年前になすべきこと—産総研の経験から—	5	ミニ講演「水晶の右と左」	11
大連理工大学と交流協定締結	6	—その「かたち」と「なかみ」—	11
日中平和友好条約締結25周年記念訪中団に参加	6	手取川流域の環境をやさしく解説	11
—蘇州大学、南京大学を訪問—	6	—第1回手取川談義—	11
米国教育者一行と意見交換	6	サイエンス・リアルミュージアム	11
ベンチャービジネスプランコンテスト	7	（理学部自然史標本展示会）	11
MOTを学ぶ	7	公開講座	11
ランチョンセミナーで法人化を説明	7	法経文学部同窓会創立50周年を祝う	12
ランチョンプロジェクト始まる	7	竹炭作り—角間の里山自然学校—	12
東海・北陸地区国立大学事務局長会議	8	交通事故を防げ！	12
六大学法文系学部長会議	8	編集後記	12
労働安全衛生法研修会	8		

## トピックス

## 馳文部科学大臣政務官が 角間キャンパスを視察

馳 浩文部科学大臣政務官は10月6日、就任後初の大学視察として本学角間キャンパスを訪れた。林勇二郎学長から、総合移転の進捗状況、附属病院の再開発、法科大学院の準備状況、地域貢献への取り組み等について説明を受けた後、附属図書館と資料館を視察した。一連の視察を終え、馳政務官は「伝統に甘えることなく、県民、市民に親しまれる大学として一層努力を」と述べた。



林学長から説明を受ける馳政務官（上）  
和田敬四郎附属図書館長（右）と笠井純一資料館長（左）の案内で附属図書館と資料館を視察



講演する土井参事官（左）と、学生も  
多く参加した説明会  
＝大学会館大ホール



## 知的財産活動への参加を！

10月9日、知的財産活動への理解と学生の参加を促す目的で、知的財産についての説明会が開かれ、136名の学生及び教職員が参加した。

説明会では、内閣官房知的財産戦略推進事務局の土井俊一参事官が、「知的財産推進計画—大学への期待—」と題して基調講演し、政府の取り組みを紹介するとともに、大学の体制整備と、特許申請、知的財産の活用拡大への期待を述べた。

また、知的財産本部の村上清史本部長による知的財産活動への学生の参加呼びかけ、KUTLOの平野武嗣監査役による最近の本学の特許申請について紹介があった。

## 学生が特許分析調査の 基礎を学ぶ

知的財産本部による特許分析調査基礎教育が10月25日から3回にわたって開催され、11名の学部生、院生が特許の基礎知識、データベースの利用・検索方法などを学んだ。修了した学生は知的財産本部、KUTLOで就業体験し、さらに知識を深めることとしている。



特許データベースの検索方法を学ぶ学生  
＝11月1日、共同研究センターセミナー室

## 10月のニュース

## 第41回全国大学保健管理研究集会

10月1, 2日, 第41回全国大学保健管理研究集会が開かれ, 全国の国公立大学の保健管理業務担当者及び研究者約800名が出席した。「変わりゆく大学と保健管理センターの役割—原点からの再始発—」をテーマに, これからの保健管理センターに本当に必要なものを現場からの視点でとらえるため, 講演, シンポジウム, 一般研究発表(ポスター形式)などが行われた。



開会式と「これからの大学と学生」と題して特別講演する林学長(左上)  
= 10月1日, 金沢市観光会館



講演する御影教授=金沢市内のホテル

「くすりと健康プラザ」  
開設記念市民講演会

薬学部は10月26日, 「くすりと健康プラザ」の開設記念市民講演会を開催した。「くすりと健康プラザ」は, 薬学部が地域貢献推進事業「正しい医薬品の使い方ネットワーク」の一環として, 市民の薬と健康に関する質問に答え, 正しい知識の普及に役立たせることを目的として市内に開設されたもの。

講演会では, 市民の関心の高い2つの話題を取り上げ, 薬学部御影雅幸教授が「便秘と漢方」, 附属病院大村健二講師が「食と健康—溢れる情報を見わかる方法—」と題して講演し, 参加した市民ら約100人が薬と健康について理解を深めた。

市民公開セミナー  
「がん医療の最前線」

10月25日, がん研究所主催の市民公開セミナー「がん医療の最前線」が開催された。セミナーではがん研究所及び医学部附属病院の3名の研究者が「膵臓病の早期発見」「胃癌手術はここまで進歩した」「ゲノム計画と21世紀の医学生物学」と題して講演し, 約100名の参加者が, がんの最新治療やヒトゲノム配列の解読で幕を開けた21世紀の医学生物学について理解を深めた。



参加者からの質問に答える講演者=金沢市内のホテル

## 教育フォーラム2003 in羽咋

10月26日、教育学部主催、羽咋市と羽咋市教育委員会の共催で「教育フォーラム2003 in羽咋」が開催された。「国語と情報教育」をテーマとしたこのフォーラムでは、新指導要領によって大きく変わった国語教育に焦点を当て、同学部加藤和夫教授による講演のほか、県内の先進実践の報告や国語教科書編集者との対談のほか、大学、教育現場、教科書編集者との間で国語教育について大いに議論が展開された。



講演する加藤教授＝羽咋市文化会館大ホール



質疑応答する清水教授と参加者＝医学部記念館

## 第2回北陸ポストゲノム研究フォーラム

第2回北陸ポストゲノム研究フォーラムが、10月24日、がん研究所と富山医科薬科大学和漢薬研究所との初の合同シンポジウムとして開催され、両研究所及び医学系研究科の若手教官による4題の研究発表が行われた。特別講演では慶応義塾大学医学部の清水信義教授が「ヒトゲノム研究の新たな展開」と題してヒトゲノム完全解読によるヒト分子生物学と今後の臨床応用について講演した。

## 大学アーカイブズの意義、役割を提言

10月1日から11月28日まで開催中の資料館特別展「大学図書館への招待」の一環として10月24日、東京大学史料室の谷本宗生氏による資料館公開講演会が行われ、約50名の教職員、学生及び市民が参加した。



「大学アーカイブズの役割と活動」について講演する谷本氏＝事務局大会議室

## 法人化半年前になすべきこと ー産総研の経験からー

10月2日、今年法人化した独立行政法人産業技術総合研究所の矢部彰マイクロ・ナノ機能広域発現研究センター長が講演し、労働安全の重要性と「意識改革のための周知徹底」について強調した。



「法人化半年前になすべきこと」と題して行われた講演＝工学部秀峯会館中会議室

## 国際交流

### 大連理工大学と 交流協定締結

本学は10月21日、中国大連市にある大連理工大学と大学間交流協定を締結した。大連理工大学で行われた調印式には、林学長、廣瀬幸雄共同研究センター長、山崎光悦工学部教授、矢富盟祥同教授らが出席し、林学長と程 耿東大連理工大学学長が協定書に署名した。これにより、本学の大学間学术交流協定校は36機関となった。学長一行は、このほか大学間交流協定校である大連大学、薬学部の部局間協定校である大連軽工業学院を訪れた。



協定書に署名する林学長と程学長＝大連理工大学



懇談する畑副学長（左端）＝10月16日、南京大学

### 日中平和友好条約 締結25周年記念訪中団に参加 －蘇州大学、南京大学を訪問－

日中平和友好条約締結25周年を記念し、石川県から谷本正憲知事を団長とする120名の訪中団が10月14日～18日、石川県と友好交流協定を結んでいる中国江蘇省を訪問した。本学からは畑安次副学長と五十嵐利光留学生課長が参加し、大学間交流協定校の蘇州大学、及び本学から協定締結を申し入れている南京大学を表敬訪問した。

蘇州大学では、学生交流の情報交換を中心に、学生指導や外部評価をめぐって懇談が行われ、また南京大学では、協定締結について話し合われた。

### 米国教育者一行と意見交換

フルブライトメモリアル基金による米国教育者訪問団20名が、10月14日本学を訪れた。

一行は資料館を見学後、金子勲榮副学長、杉本幹博教育学部長を始め教育学部関係者と、教員養成及び学校教育に関する諸問題について意見交換した。米国教員からは、日本の教員免許更新の現状、教員のスキルアップのための研修制度、障害児教育の在り方等について様々な質問が出され、本学からは日本の教育制度の現状と展望について説明した。



意見交換する米国教育者＝事務局大会議室

# 動き

## ベンチャービジネスプランコンテスト

10月28日、学生からのビジネスプランの提案・発表により、学生のベンチャーマインドを高めて大学発のベンチャーを起す機運を高めようと、ベンチャービジネスプランコンテストが開かれた。

コンテストには9名の院生が応募、発表。4名の審査員から技術的課題や競合製品に対する優位性、ニーズ把握など次々と質問があり、熱のこもったやりとりが行われた。発表後、審査員による結果発表・講評とパネルディスカッションが行われた。



ビジネスプランを発表する学生

審査員によるパネルディスカッション  
＝工学部秀峯会館中会議室



多くの学生が集まった「技術経営入門」の授業  
＝9月30日、工学部32番教室

## MOTを学ぶ

自然科学研究科博士前期課程で、MOT (Management of Technology＝技術経営) について学ぶ授業が始まった。この授業は技術と経営の両面に精通した人材の育成を目指して開設されたもので、「技術経営論入門」と「ニュービジネス創造論」の2つ。自然科学研究科では、来年度からさらに講義の数を増やして、日本産業の再生に活躍できる人材の育成を目指すこととしている。

## ランチョンセミナーで法人化を説明

学生にも法人化後の大学像を知ってもらおうと、10月15日、林学長がランチョンセミナーで「法人化と大学改革」と題して講演し、「大学運営において学生の視点と参加が必要となる」と強調した。



学生に説明する林学長  
＝総合教育棟A1講義室

## ランチョンプロジェクト始まる

ランチョンセミナー、ランチョンコンサートに続き、サークル活動の発表の場として学生が企画する「ランチョンプロジェクト」が10月16日から始まった。初回は、「金大祭を10倍楽しむためにPart1」として、金大祭本部実行委員会が金大祭をアピールした。



「金大祭を10倍楽しむためにPart1」  
＝10月16日、総合教育棟A1講義室



参加学生が飛び入り演技した  
「ジャグリングとマジック」  
＝10月24日、同左

## 10月のニュース

### 東海・北陸地区国立大学事務局長会議

10月30、31の両日、本学を当番校として第38回東海・北陸地区国立大学事務局長会議が開かれ、14機関の事務局長らが出席した。会議では、法人化後の職員の人事及び事務組織などについて意見交換され、文部科学省大臣官房人事課の山下馨専門官が、理事・監事の在り方等について報告した。



意見を交わす事務局長ら  
=10月30日、金沢市内のホテル

### 六大学法文系学部長会議

10月23日、本学を当番校として第51回六大学（千葉大、新潟大、岡山大、香川大、熊本大及び金沢大）が開かれ、「六大学間の教員・学生による相互交流、国内留学制度」等について議論が交わされた。



会議の冒頭、あいさつする畑副学長と出席者=金沢市内のホテル



説明する中林課長=事務局特別会議室

### 労働安全衛生法研修会

10月27日、労働安全衛生法に対する理解を深るため、厚生労働省労働基準局安全衛生部の中林圭一労働衛生課長を講師に招き同法の趣旨や内容に加え最近の労働衛生問題の傾向に関する研修会が行われた。

### 就職戦線に備える

年々就職活動が早期化する中、10月9日から30日にかけて学生の就職を支援するガイダンスが文学部、法学部、経済学部、教育学部、理学部及び工学部で順次実施された。



「教員採用試験の現状と対策」  
=10月30日、教育学部402講義室

### アカンサス学生情報システムが稼働

後期からアカンサス学生情報システム（学生用）が稼働した。これはWebを利用して学生が各種申請や届出を行うもので、10月から履修登録、本人の連絡先変更の届出、父母等の連絡先変更の届出を開始した。科目等履修生や特別聴講学生を含むすべての学生が利用できる。



アカンサス学生情報システムを利用して連絡先の変更を入力する学生



## 新任部局長



薬学部長  
石橋 弘行

任期：平成15年11月1日  
～平成17年10月31日

## 北陸技術交流テクノフェア2003

10月23、24の両日、福井県産業会館で「北陸技術交流テクノフェア2003」が開催され、本学からは、工学部デジタルシステム研究室、同システム制御研究室、共同研究センター及びKUTLOが合同で出展した。北陸地域の産学官が一同に会する同フェアには、延べ1万6千人の来場者があった。



デジタルシステム研究室による「指向性アレースピーカ」の実演



システム制御研究室による「磁気浮上システム」の実演

## 第19回高校教育 研究協議会

10月17日教育学部附属高等学校で、「確かな学力の向上をめざして一個に応じた指導とその評価の試み」をテーマに高校教育研究協議会が行われ、全国から約150名の高校教育関係者が参加した。公開授業や分科会の後、全体会で、文部科学省から指定を受けた「学力向上フロンティアハイスクール事業」の取組みについて報告や講演があった。



慶応義塾大学戸瀬信之教授による講演「教育言説に論理・事実・科学的批判精神を」

## 不審者が侵入した！

### 一附属小学校・幼稚園で避難(防犯)訓練一

不審者が教室に侵入した場合、素早い行動で避難することを目的に、教育学部附属小学校及び附属幼稚園は10月14日、避難(防犯)訓練を行った。



保護者への園児引渡し＝附属幼稚園

## 講演会

### 「輸血ポンプ、チューブ類管理と 転倒・転落事故の発生要因と対策 ～インシデント1万事例の分析から明らかになったこと～」

医学部附属病院は10月30日、医療事故防止に関する研修会の一環として、杏林大学保健学部川村治子教授による講演会を開催した。川村教授は、看護事故1万事例の分析データを基に具体的な事例を挙げてその原因と防止策について講演し、参加した医療従事者約330名は、医療事故防止についての意識の再確認した。



講演する川村教授  
＝医学部臨床第一講義室

## 学長室から



10月9日、「知的財産についての説明会」のため来学した内閣官房知的財産戦略推進事務局 土井 俊一 参事官（左端）



10月27日、工学部部局間交流協定校ドイツ イルメナウ工科大学 オリバー・サボドニー教授（左）、同大学から留学中の学生（右）

## 海外研修の成果を報告

10月15日、「文部科学省国際研究交流担当職員短期海外派遣研修」、「金沢大学教育研究支援職員海外派遣研修」にそれぞれ参加した職員の研修報告会が行われた。これらの研修は本学の協定校において、英語研修、実務研修及び大学運営に関する調査等を行ったもので、前者は総務部総務課の林透主任がオーストラリアのグリフィス大学で約40日間、後者は学生部留学生課の敷中待子事務官が同じくオーストラリアのオーストラリア国立大学で約3ヶ月間の研修を行い、それぞれ研修先大学で調査した大学運営の実



報告を行う林主任（上）と敷中事務官（左）  
＝事務局大会議室

情や研究マネジメント等について、また、留学生や国際交流を担当する部署で行った実務研修についての報告があった。



ゴミ集積場を見学する委員ら＝教育学部玄関

## 教育学部の 環境管理を見学

大学の環境管理計画を進める環境マネジメント委員会は10月31日、学内でも取組みが進んでいる教育学部の管理状況を見学した。教育学部川幡佳一委員の説明の後、川野正博事務長の案内で、学生が作成したポスターの掲示や、ゴミ集積場の分別方法の工夫など様々な取組みを見学した。

## 地域貢献

### ミニ講演 「水晶の右と左」 —その「かたち」と「なかみ」—

- 月 日：10月18日
- 講 師：木原國昭理学部教授
- 場 所：金沢大学サテライト・プラザ
- テレビ会議システムによる「金沢大学遠隔講座」受信会場  
：サンビーム日和ヶ丘（田鶴浜町）
- 来場者：30名



講演後の質疑応答

### 手取川流域の環境をやさしく解説 —第1回手取川談義—

文学部地理学教室は10月19日、松任市民交流センターで「第1回手取川談義」を開いた。これは本学地域貢献推進事業の1つとして、市民に手取川の特徴を知ってもらおうと開かれたもの。談義では、文学部青木賢人助教授が「手取川流域の自然環境」、愛知大学の藤田佳久教授が「日本の霞堤システム」と題して講演した。

### サイエンス・リアルミュージアム (理学部自然史標本展示会)

10月16日～19日、理学部所蔵の生物、地学系標本を公開する「サイエンス・リアルミュージアム」が金沢大学サテライト・プラザで開かれ、岩石、鉱物や化石、昆虫、植物の標本など約500点が展示された。



展示された植物標本

## 公開講座



パワーポイント入門  
＝10月18日、大学教育開放センター大講義室



健やかな健康を保つために学びましょう  
＝10月25日、金沢大学サテライト・プラザ講義室

## 法経文学部同窓会 創立50周年を祝う

今年創立50周年を迎え、同窓生1万8千人を超えた法経文学部同窓会は、10月18日、金沢市内のホテルで創立50周年記念式を開き、同窓生約200人が節目を祝った。記念式では、森喜朗前首相、馳浩文部科学大臣政務官、四高同窓会渋谷亮治会長が祝辞を述べ、引き続き懇親会で林学長、岡田晃前学長らがあいさつした。



創立50周年記念式で式辞を述べる金川琢雄前同窓会会長



炉から取り出した竹炭

## 竹炭作り — 一角間の里山自然学校 —

10月25日、里山から伐り出したモウソウチクを使って炭焼きを行った。竹炭は、乾燥させた竹を切りそろえて炭化炉に入れ、約8時間かけてゆっくりと焼く。翌日、炉を開けると8割は生焼けの失敗。その後試行錯誤を繰り返し、27日に再挑戦した結果は大成功。里山自然学校の焼いた竹炭は、金大祭バザーに出品された。

## 交通事故を避け！

10月27日、文・法・経済学部A101講義室で学生の交通安全の意識を高め、事故の抑制を図ることを目的に、日本自動車連盟（JAF）の講師による「交通安全講習会」が行なわれた。約150名の参加者はゲームをまじえた講師の話に熱心に耳を傾けた。



講師の話に熱心に耳を傾ける学生ら

## 編 集 後 記

10月下旬、「激変する環境と大学の選択」をテーマとしたシンポジウムに出席した際、ある大手進学塾の報告を聴いて、愕然とした。『偏差値』をあまり意識しない」という条件付きとは言え、「大学の中で貴校が評価する大学はどこか？」との問いに対して、全国の高校の進路指導担当教諭が01年度も03年度も、本県の某私立大学に断トツで高い評価を与えているのだ。答えて曰く、「大学アピールにかける熱意を感じる。カリキュラムに力を入れている」、さらに曰く、「研究施設・内容も充実し、学生一人ひとりに対する丁寧な指導・就職実績がすばらしく、卒業生の満足度が高い」と。蓋し。

本学卒業生の圧倒的多数は、「金沢大学で学んで良かった」と言って毎年卒業しているハズだが…。イグ・ノーベル賞受賞やドミノ倒し大会全国優勝という本学の明るい話題が全国を駆け回った晩秋。04年こそは金沢大学が注目度No.1大学となることを切に願う。  
(総務部企画広報室専門員 西谷公作)

平成15年11月21日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町  
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024  
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))  
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。  
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。